

| 9月の行事予定 |   |
|---------|---|
| 1       | 日 |
| 2       | 月 |
| 3       | 火 |
| 4       | 水 |
| 5       | 木 |
| 6       | 金 |
| 7       | 土 |
| 8       | 日 |
| 9       | 月 |
| 10      | 火 |
| 11      | 水 |
| 12      | 木 |
| 13      | 金 |
| 14      | 土 |
| 15      | 日 |
| 16      | 月 |
| 17      | 火 |
| 18      | 水 |
| 19      | 木 |
| 20      | 金 |
| 21      | 土 |
| 22      | 日 |
| 23      | 月 |
| 24      | 火 |
| 25      | 水 |
| 26      | 木 |
| 27      | 金 |
| 28      | 土 |
| 29      | 日 |
| 30      | 月 |

## 今後の保護者会活動

### ◆秋季大運動会◆

日時 令和元年10月5日(土)  
 時間 午前8時00分集合  
 午前8時20分開始  
 場所 高岡保育園

※詳しい内容については、後日お知らせ致します。

## お知らせとお願い

☆プール遊びは8月いっぱい終了します。  
 ☆カラー帽子のゴムが伸びているお子さんが目立ちます。ゴムの確認・付け替えをお願い致します。



# たかほだより

2019年

9月

8月27日

お誕生日おめでとう

- ・ちば ゆきな さん (6さい)
- ・たかはし ゆずき さん (6さい)
- ・さくらい ゆあ さん (5さい)
- ・くらもち ゆうまくん (4さい)
- ・しながわ ほのか さん (3さい)
- ・こばやし あいと くん (3さい)
- ・いわやなぎ こうせい くん (3さい)
- ・ふじた かのん さん (2さい)

やっと梅雨が明けた8月。ギラギラした太陽が差し込み夏本番となりました。子ども達の大好きなプールもなかなか出来ず「今日やる?」「明日は?」と待遠しい様子がたくさん見られ、よく外の雨を見ていた子どもたちでした。この暑さもまだまだ続きそうですが、9月に入ると、秋の運動会に向けて少しずつ遊戯やかっここの練習が始まります。また、この時期は、夏の疲れが出やすいので一人ひとりの体調に気をつけながら無理なく練習に望んで行こうと思います。なかなか、外での練習も、思うように出来ないかもしれませんが、本番では元気な頑張りを見せてくれることでしょう。温かく見守っていただければ幸いです。



## 保育目標

### あか組

- ◆保育士の愛情豊かな受容と関わりの中で、触れ合い遊びを楽しむ。
- ◆運動機能を使って、探索活動を楽しむ。

### みかん組

- ◆食事・排泄などの活動を通して、簡単な身の回りの事を自分でしようとする。
- ◆保育士や友達と一緒に、自由に体を動かす事を楽しむ。

### ふじ組

- ◆秋の自然にふれながら、戸外遊びを楽しむ。
- ◆したいこと、してほしいことを言葉で伝えようとする。

### そら組

- ◆季節の変化に気づき秋の食材や昆虫・植物などの自然に関心を持って触れる。。
- ◆運動会に向けて練習する中で、友達と力を合わせて頑張る喜びを知る。

### もも組

- ◆運動会への期待をもちながら、様々な遊具や用具を使って思いっきり、体を動かす事を楽しむ。
- ◆秋の自然に気づき、季節の変化や自然現象に興味関心を持つ。

### きいろ組

- ◆運動会の練習を通し、競う気持ちを高め、意欲的に取り組む。
- ◆秋の自然に親しみを持つ。

## 運動会練習日

ふじ組以上児の、「運動会練習日」は、園庭にて、合同で行います。クラスによっては種目の内容や天候で行わないこともあります。練習日と記載されている日には、体操着又は運動しやすい服装や運動靴での登園をお願いします。  
 ※かけっこや競技の練習が始まります。サンダルや、おしゃれ靴での登園は避けて下さい。  
 ※練習の都合上、9時までに登園して下さい。ご協力をお願いします。

## 運動靴について

☆運動会当日は、普段はき慣れている運動靴での運動会参加となりますが、靴のサイズがお子さんの足にあった運動靴での参加をお願いします。(靴には名前を忘れずに・・・)  
 ☆体操着が小さくなっているお子様は、担任にご注文下さい。

## 魔法のことはば

子どもが転んでしまい、「いた〜い」と言って泣きべそをかきました。 そんなとき...



子どもは、ただ痛かったので「痛い」と言っただけです。嘘を言ったわけではありません。子どもの「痛い」という言葉をそのまま認め、まず何らかの共感言葉をかけます。すると子どもは、認めてもらえたうれしさ、自分の言葉が受け入れてもらえた満足感で心に余裕が生まれ、今度は相手がい言葉を受け入れる準備ができます。「大丈夫かな?」「我慢できるかな?」などの言葉にもきつとうなずくようになると思います。大人でも、自分が痛い目に遭ったとき「大丈夫?」の一言で、痛みが軽減されるものです。